

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

-
- (1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況
 - (2) 「地域包括支援センター」の認知状況
 - (3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向
 - (4) 協力意向がある活動内容
 - (5) 「フレイル」の認知と予防活動の実践状況
 - (6) 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況
-

9 「孤立ゼロプロジェクト」など

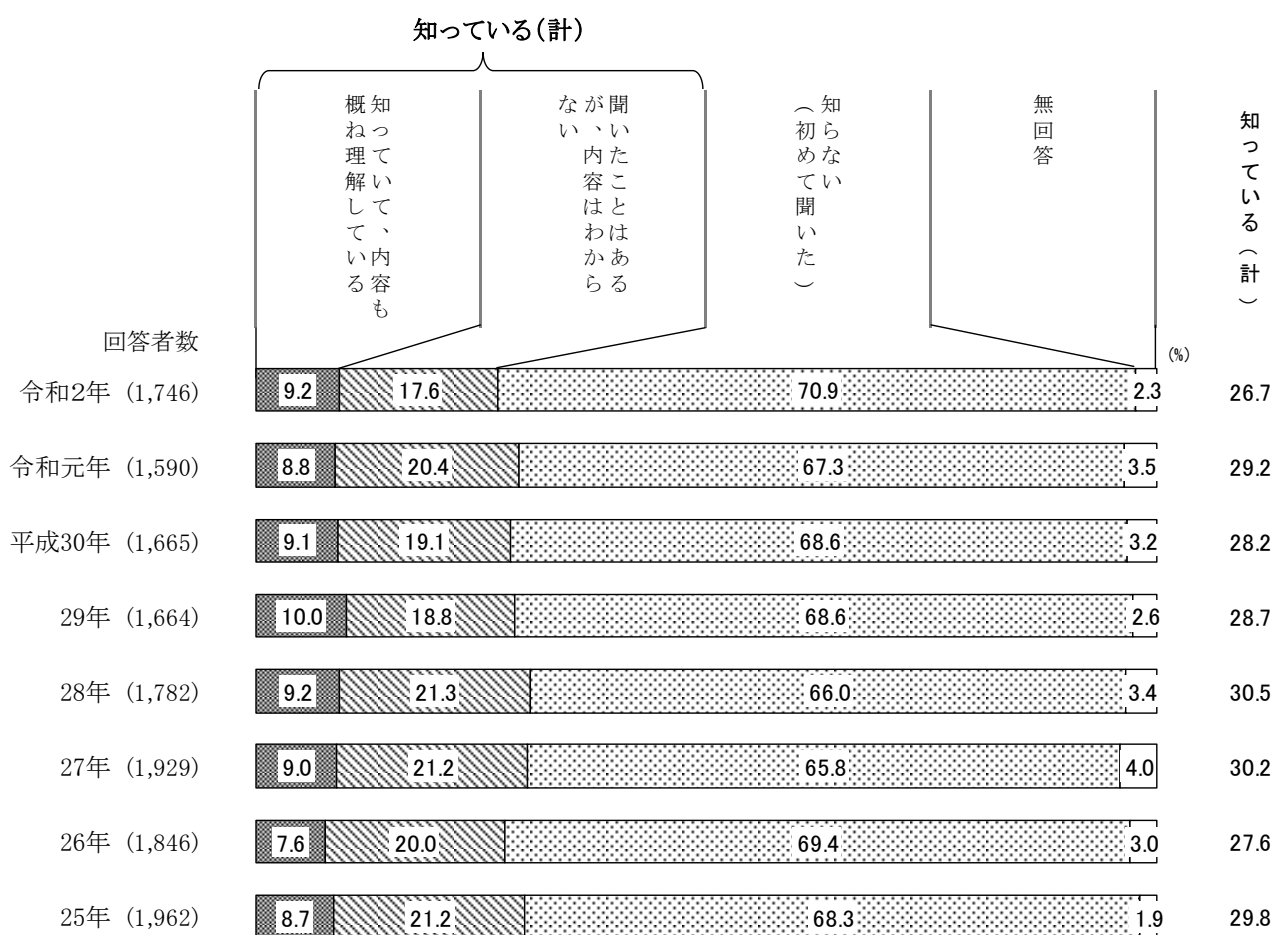
(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況

■【知っている】は2割台後半で、「知らない（初めて聞いた）」が7割強

問43 あなたは、足立区の「孤立ゼロプロジェクト（※）」という取り組みを知っていますか
（○は1つだけ）。

※「孤立ゼロプロジェクト」とは、地域における見守り活動を支援するとともに、日常的な寄り添い支援活動を通じて、支援を必要とする方を早期に発見し、必要なサービスにつなぎ、地域活動などへの社会参加を促す一連の活動をいいます。

図9-1-1 経年比較／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



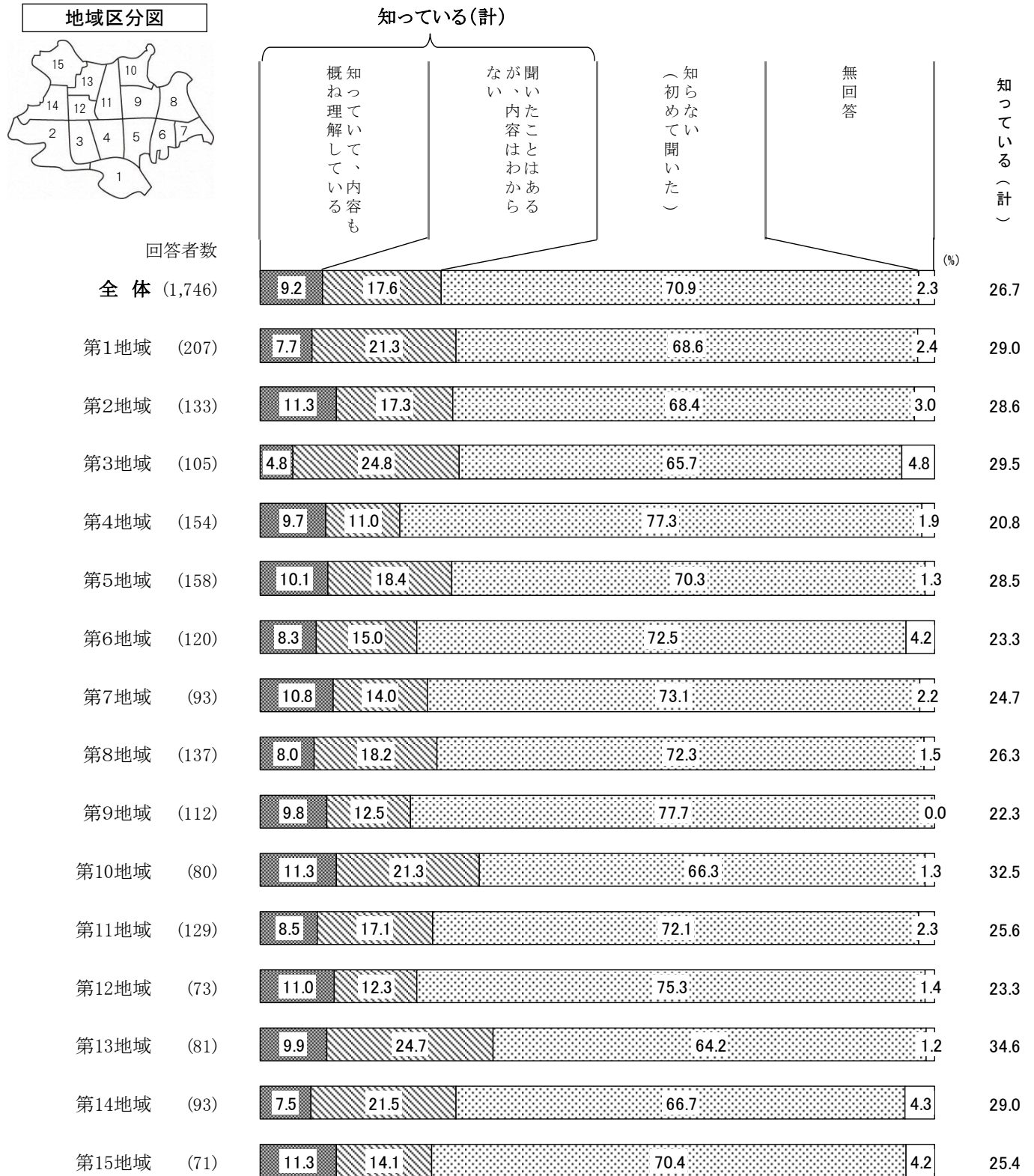
「孤立ゼロプロジェクト」について、「知っていて、内容も概ね理解している」が9.2%で、これに「聞いたことはあるが、内容はわからない」の17.6%を合わせた【知っている】は26.7%となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は70.9%を占めている。

経年でみると、【知っている】は今回26.7%で、平成25年以降3割前後で推移していたが、前回(29.2%)に比べると2.5ポイント減少し、僅差ながら平成25年以降で最も低くなっている。

第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

地域別でみると、【知っている】は第13地域で34.6%と最も高く、第10地域が32.5%で続き、この両地域で高くなっている。一方、第4地域では【知っている】が20.8%と最も低く、「知らない(初めて聞いた)」が8割弱と、第9地域と並んで高くなっている。

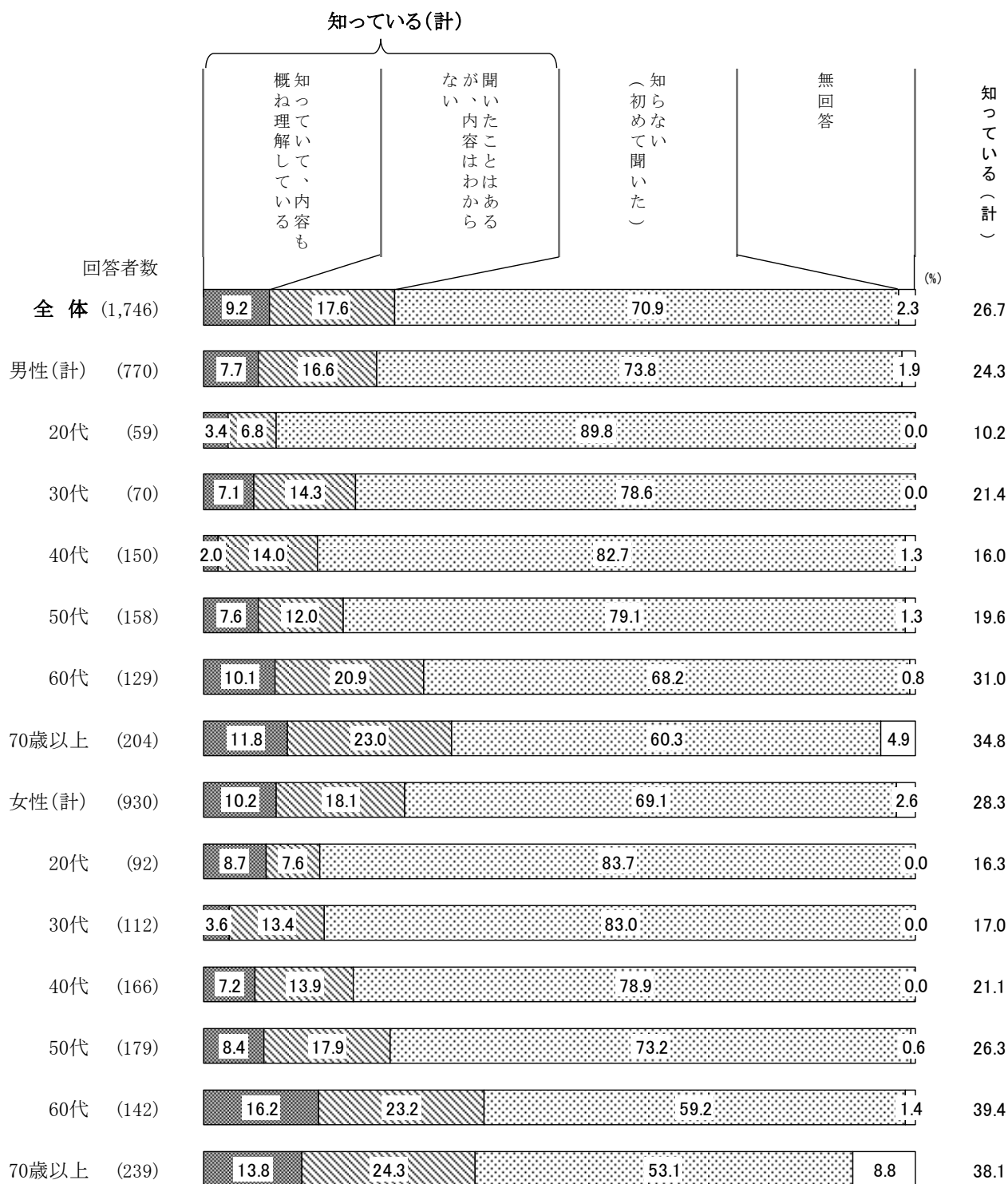
図9-1-2 地域別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



性別でみると、【知っている】は男性24.3%、女性28.3%と、女性の方がやや高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、男性では70歳以上で3割台半ば、女性では60代と70歳以上で4割弱と、それぞれ高くなっているが、男女の20代と男性の40代、女性30代ではいずれも1割台半ば以下と低く、男女ともに概ね年代が高くなるにつれて認知率も高まる傾向がみられる。

図9-1-3 性別、性・年代別／「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況



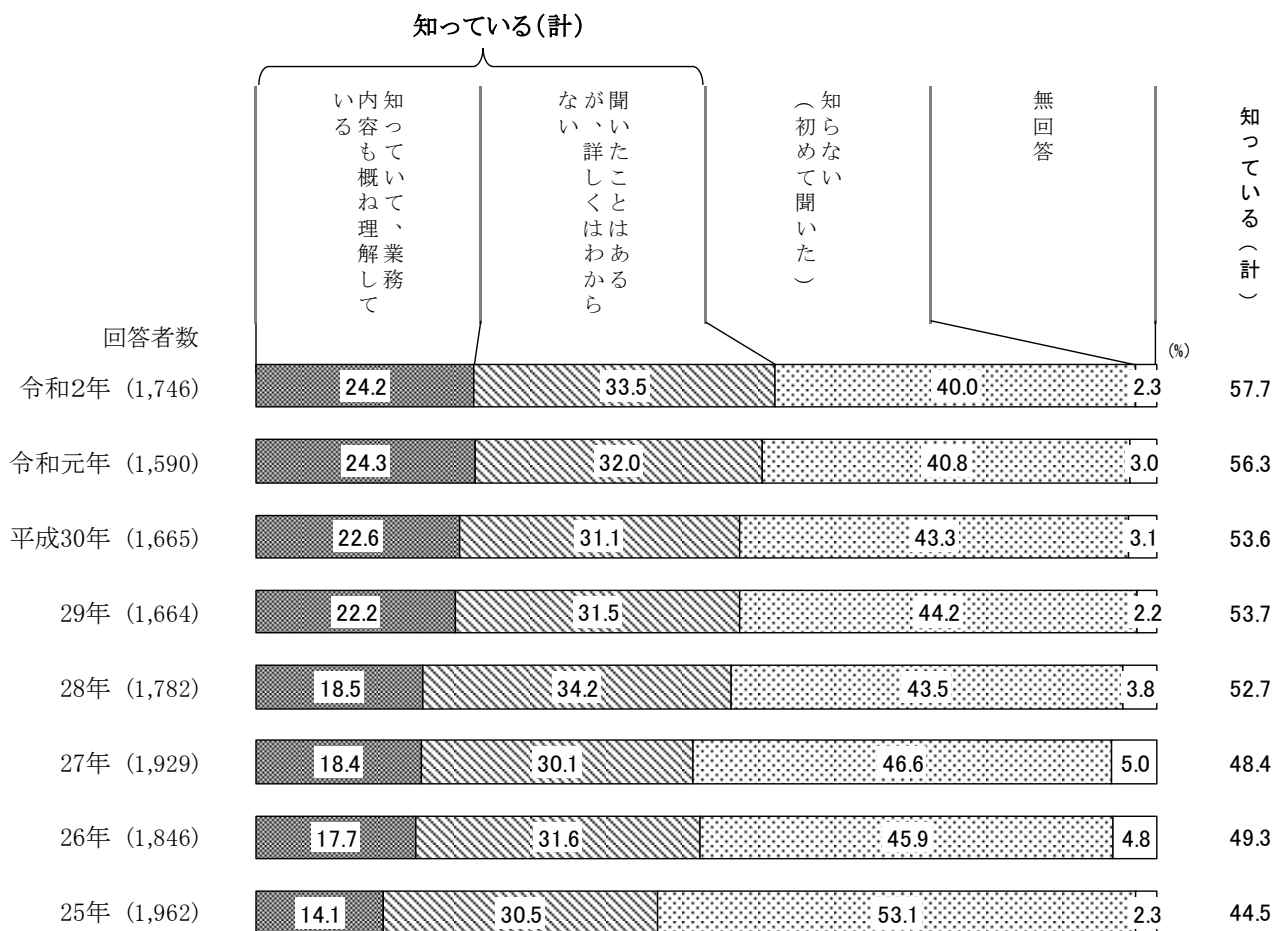
(2) 「地域包括支援センター」の認知状況

■【知っている】が、漸増傾向を続けて、今回は6割弱

問44 あなたは、「地域包括支援センター（※）」を知っていますか（○は1つだけ）。

※「地域包括支援センター」とは、足立区から委託を受けた公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の方の様々なご相談に応じて、公的な保健福祉サービスの紹介や申請手続きのお手伝いをします。

図9-2-1 経年比較／「地域包括支援センター」の認知状況

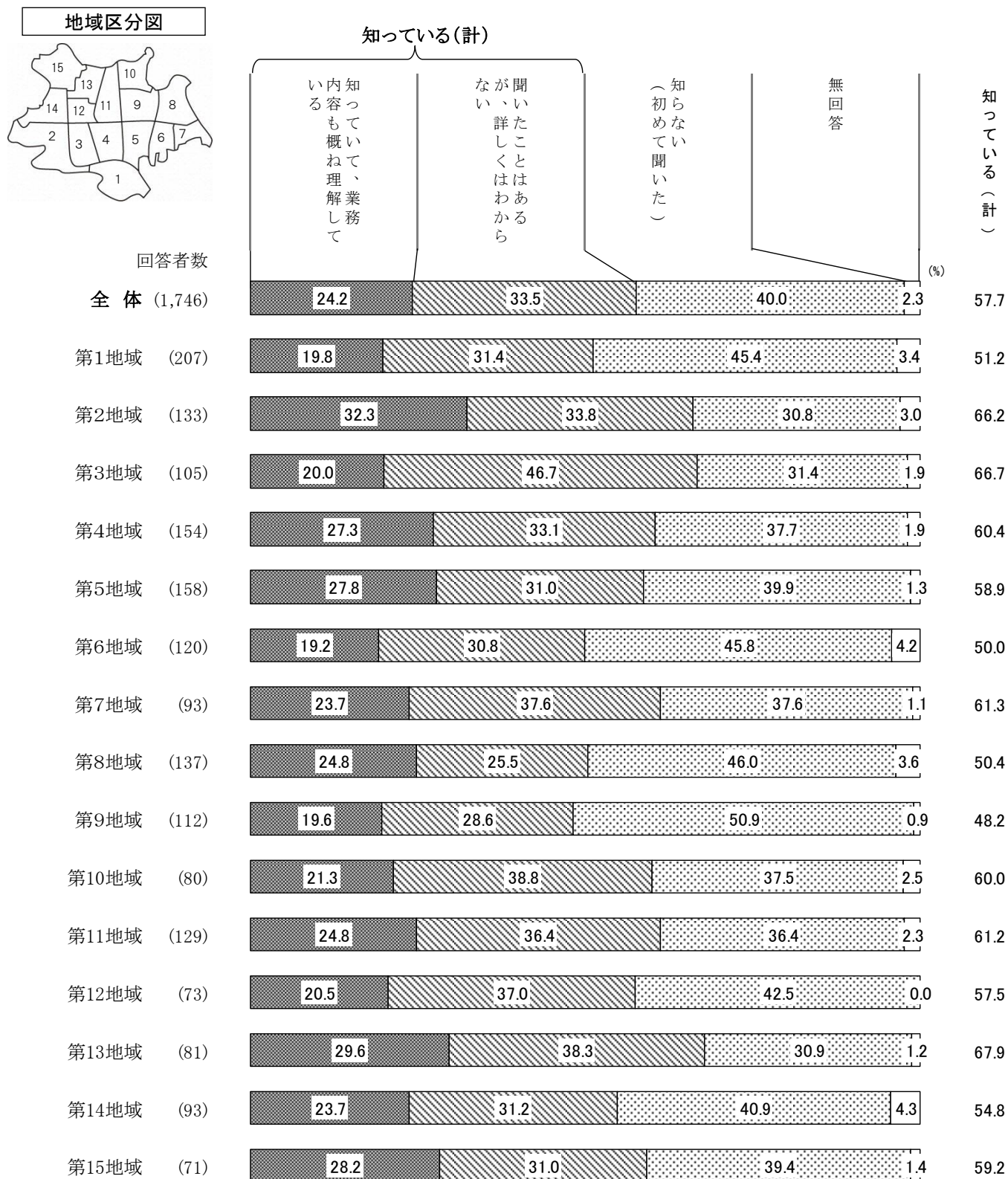


「地域包括支援センター」について、「知っていて、業務内容も概ね理解している」が24.2%で、これに「聞いたことはあるが、詳しくはわからない」の33.5%を合わせた【知っている】は57.7%となっている。一方、「知らない(初めて聞いた)」は40.0%である。

経年でみると、回答分布に大きな変動はみられないものの、【知っている】は今回57.7%で、前回より1.4ポイント増えており、平成25年の44.5%からみると10ポイント以上増加して、引き続き漸増傾向にある。

地域別でみると、【知っている】は67.9%の第13地域で最も高く、第2地域と第3地域も僅差の6割台後半で続き、この3地域で高くなっている。一方、第9地域では【知っている】が48.2%と低く、「知らない（初めて聞いた）」が5割を超えて最も高くなっている。

図9-2-2 地域別／「地域包括支援センター」の認知状況

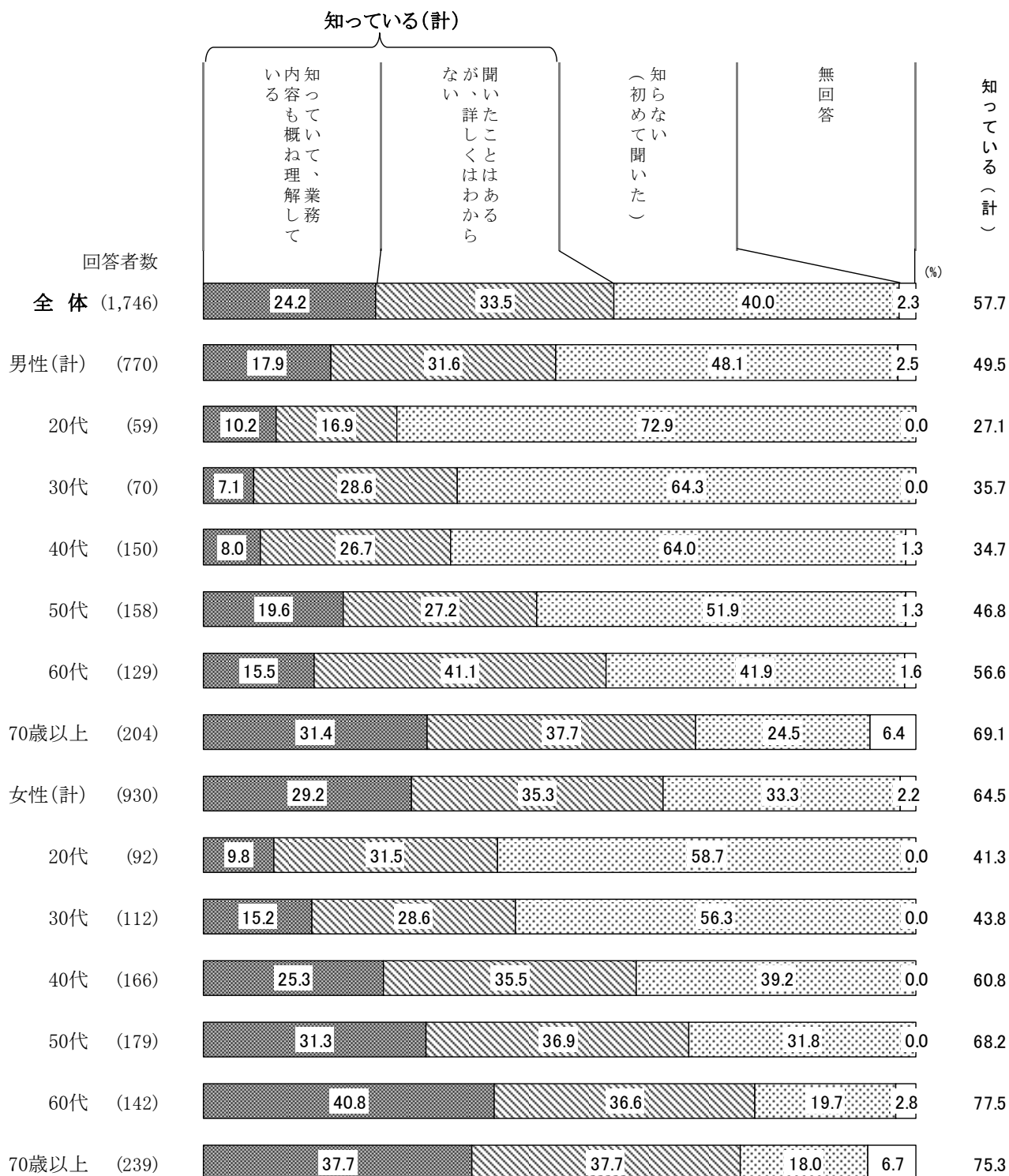


第3章 調査結果の分析（「孤立ゼロプロジェクト」など）

性別でみると、【知っている】は男性49.5%、女性64.5%と、男性より女性の方が15.0ポイント高く、男女差が大きくなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、男性では70歳以上で7割弱、女性では60代と70歳以上で7割台後半と、それぞれ高くなっており、男女ともに年代が高くなるにつれて認知率も高まる傾向がみられる。

図9-2-3 性別、性・年代別／「地域包括支援センター」の認知状況

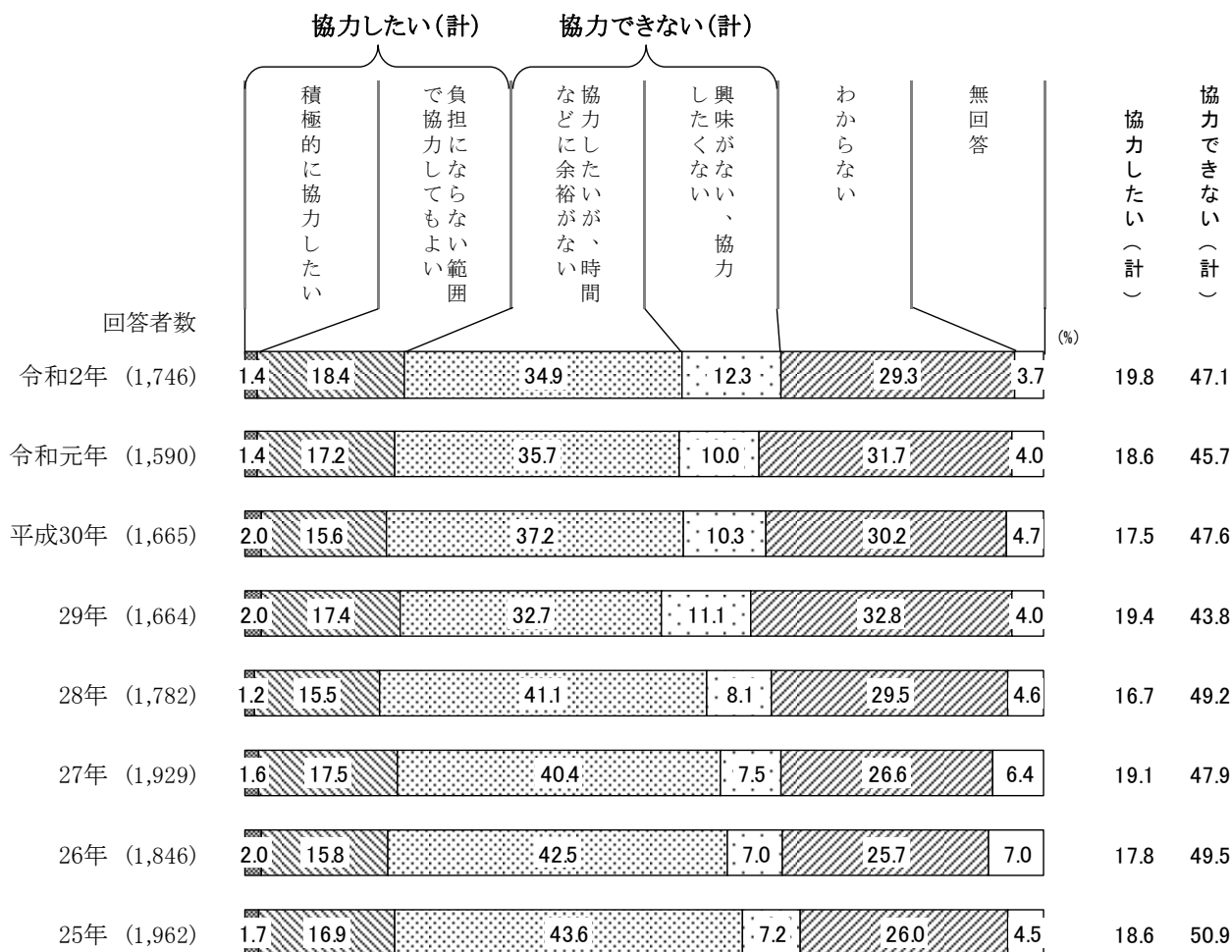


（3）高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

■【協力したい】は約2割で、2年続けて微増も、大きな経年変化はみられず

問45 あなたは、高齢者の孤立防止や見守り活動に協力してみたいですか（○は1つだけ）。

図9-3-1 経年比較／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



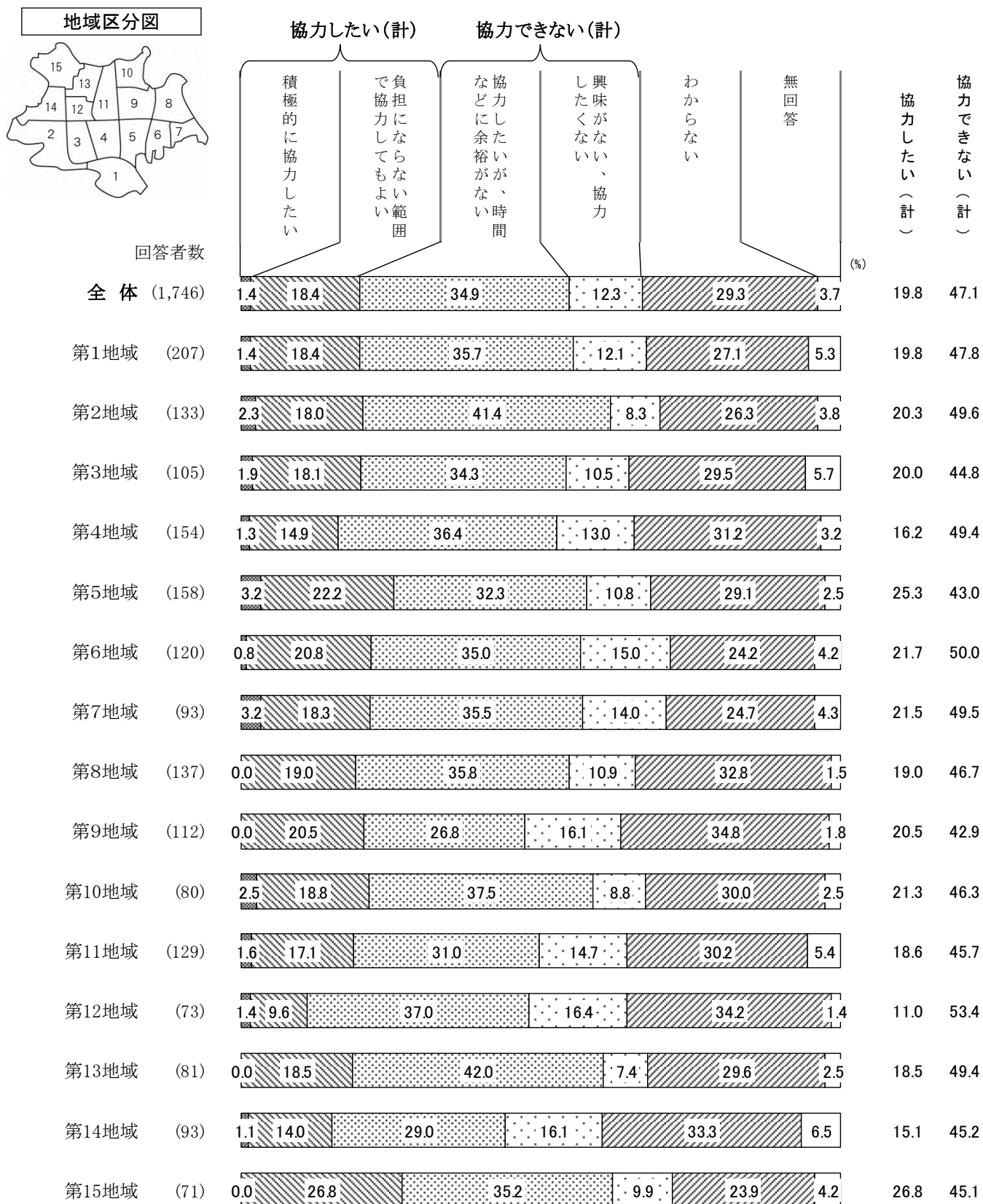
高齢者の孤立防止や見守り活動に「積極的に協力したい」は1.4%で、これに「負担にならない範囲で協力してもよい」の18.4%を合わせた【協力したい】は19.8%となっている。一方、「協力したいが、時間などに余裕がない」は34.9%、「興味がない、協力したくない」は12.3%で、この両層を合わせた【協力できない】は47.1%となっている。

経年でみると、【協力したい】は今回19.8%と、前回の18.6%より1.2ポイント増加して、2年続けての微増で、僅差ながらこれまでで最も高いものの、平成25年以降各年2割弱のレベルで推移しており、大きな経年変化はみられない。

第3章 調査結果の分析（「孤立ゼロプロジェクト」など）

地域別でみると、【協力したい】は第15地域が26.8%で最も高く、第5地域が25.3%で続き、この両地域で高くなっている。一方、【協力できない】は第12地域が5割台半ばで最も高くなっている。

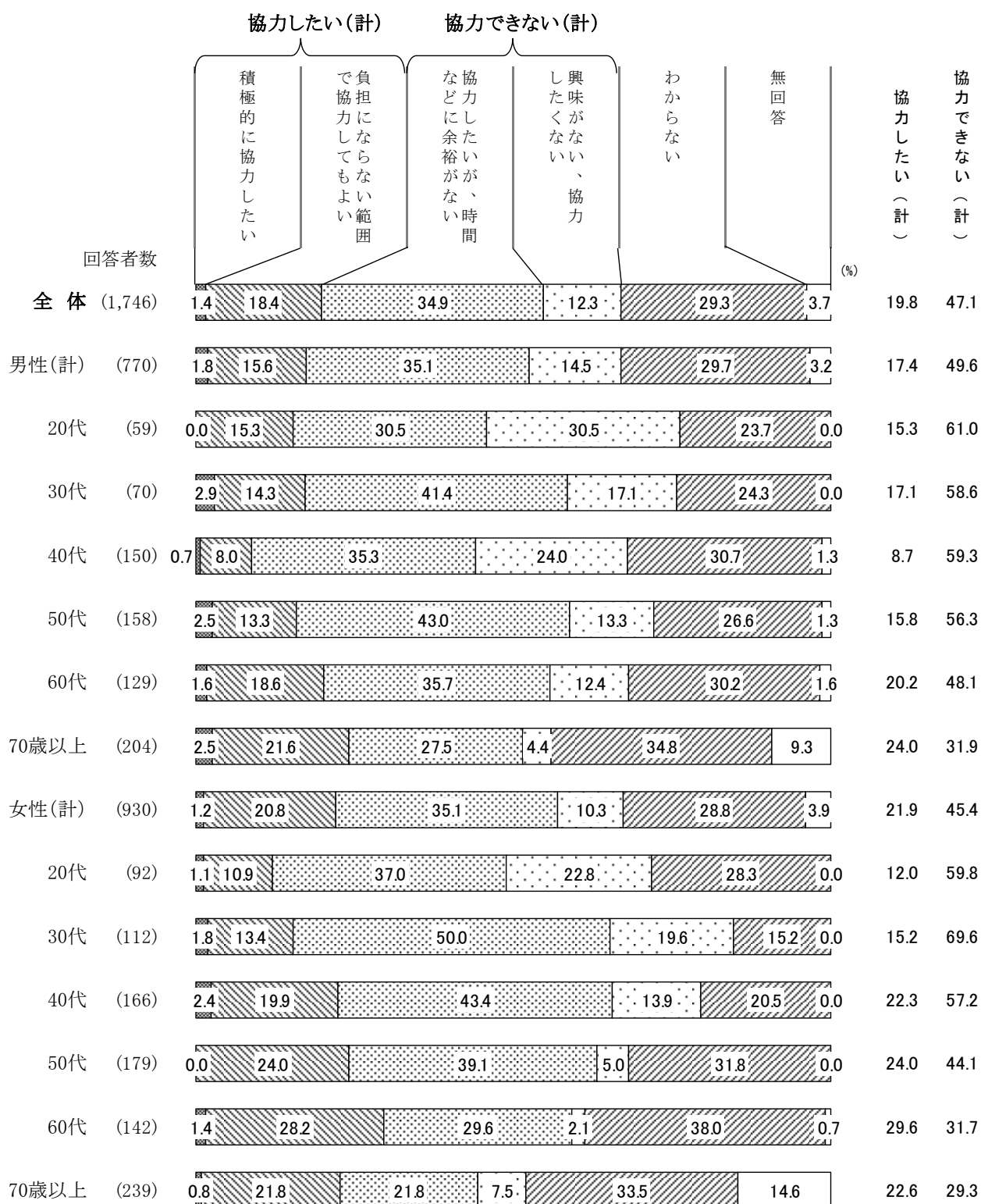
図9-3-2 地域別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向



性別でみると、【協力したい】は男性17.4%、女性21.9%と女性の方がやや高めとなっている。

性・年代別でみると、【協力したい】は、男性では70歳以上で2割台半ば、女性では60代で約3割と、それぞれ高くなっている。一方、男女の30代と女性40代、男性50代の計4層では「協力したいが、時間などに余裕がない」がそれぞれ4割強から5割を占めて、他の性・年代層より高くなっている。

図9-3-3 性別、性・年代別／高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向

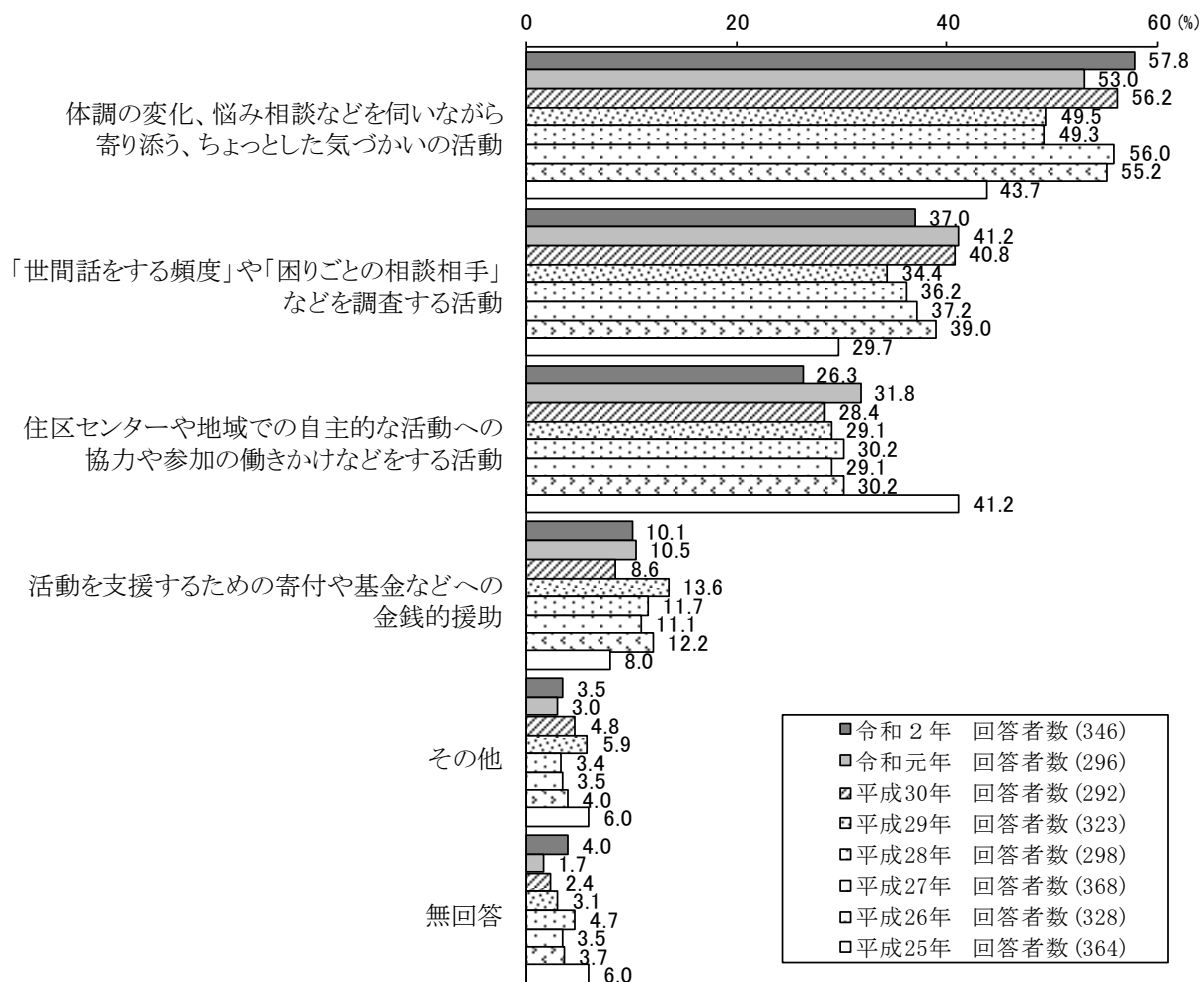


（4）協力意向がある活動内容

■ “ちょっとした気づかいの活動”が6割弱、“調査する活動”が4割弱

問45で「1 積極的に協力～」または「2 負担にならない範囲で協力～」とお答えの方に
 問45-1 どのような活動に協力したいですか（○はあてはまるものすべて）。

図9-4-1 経年比較／協力意向がある活動内容



平成25年度調査の選択肢について

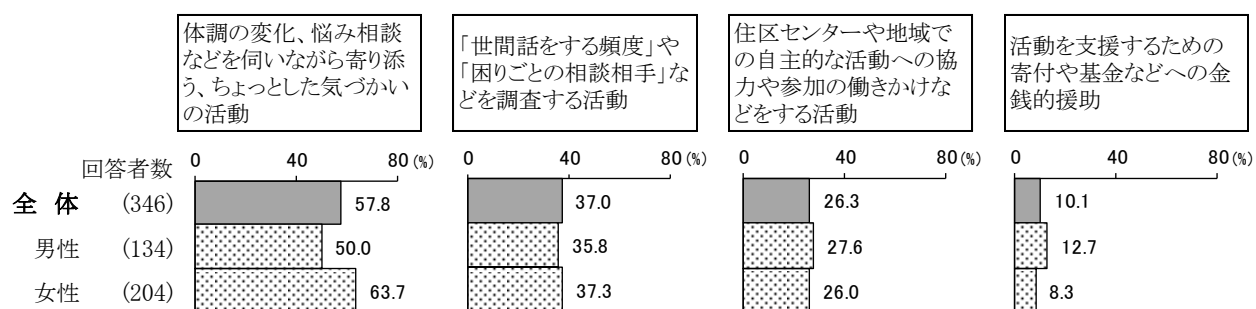
- 体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動＝平成25年度調査：寄り添い支援活動
- 「世間話をする頻度」や「困りごとの相談相手」などを調査する活動＝平成25年度調査：調査活動
- 住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動＝平成25年度調査：居場所づくりや活動の場での協力
- 活動を支援するための寄付や基金等への金銭的援助＝平成25年度調査：財政的協力

【協力したい】という人に、その活動内容を聴くと、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」が57.8%で最も高く、以下『『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動』（37.0%）、「住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動」（26.3%）の順で続いている。

経年でみると、上位項目の順位に変動はみられないものの、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」は前回より4.8ポイント増加する一方で、『『世間話をする頻度』や『困りごとの相談相手』などを調査する活動』（4.2ポイント減）と「住区センターや地域での自主的な活動への協力や参加の働きかけなどをする活動」（5.5ポイント減）の2項目は前回より比率を減少させている。

性別でみると、「体調の変化、悩み相談などを伺いながら寄り添う、ちょっとした気づかいの活動」は男性50.0%、女性63.7%で、男性より女性の方が13.7ポイント高く、性差がみられるのに対して、他の3項目では目立った違いはみられない。

図9-4-2 性別／協力意向がある活動内容

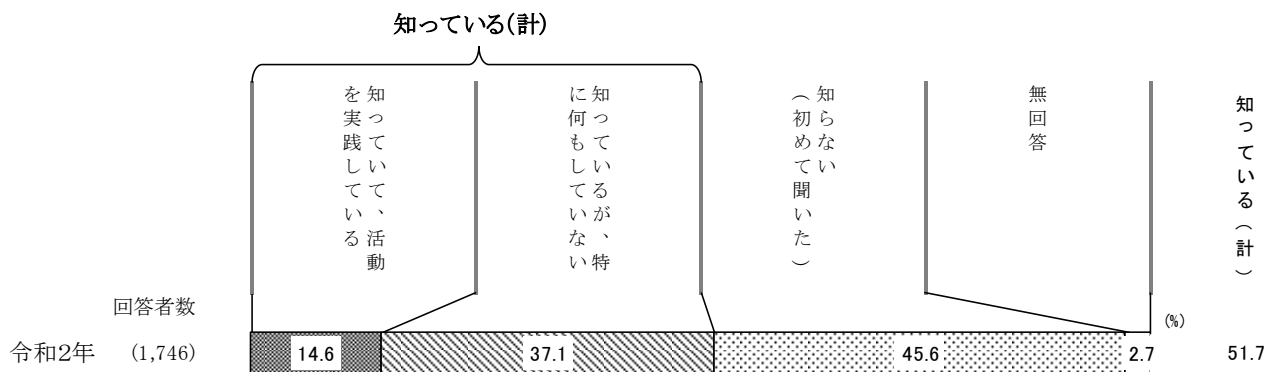


(5) 「フレイル」の認知と予防活動の実践状況

■【知っている】は5割強で、そのうち“活動を実践”は全体の1割台半ば

問46 あなたは、高齢期におこりやすい、筋力や心身の機能などが低下し、衰弱した状況「フレイル」にならないために、「運動」「口の健康・栄養」「社会参加」のそれぞれが大切なことを知っていますか（○は1つだけ）。

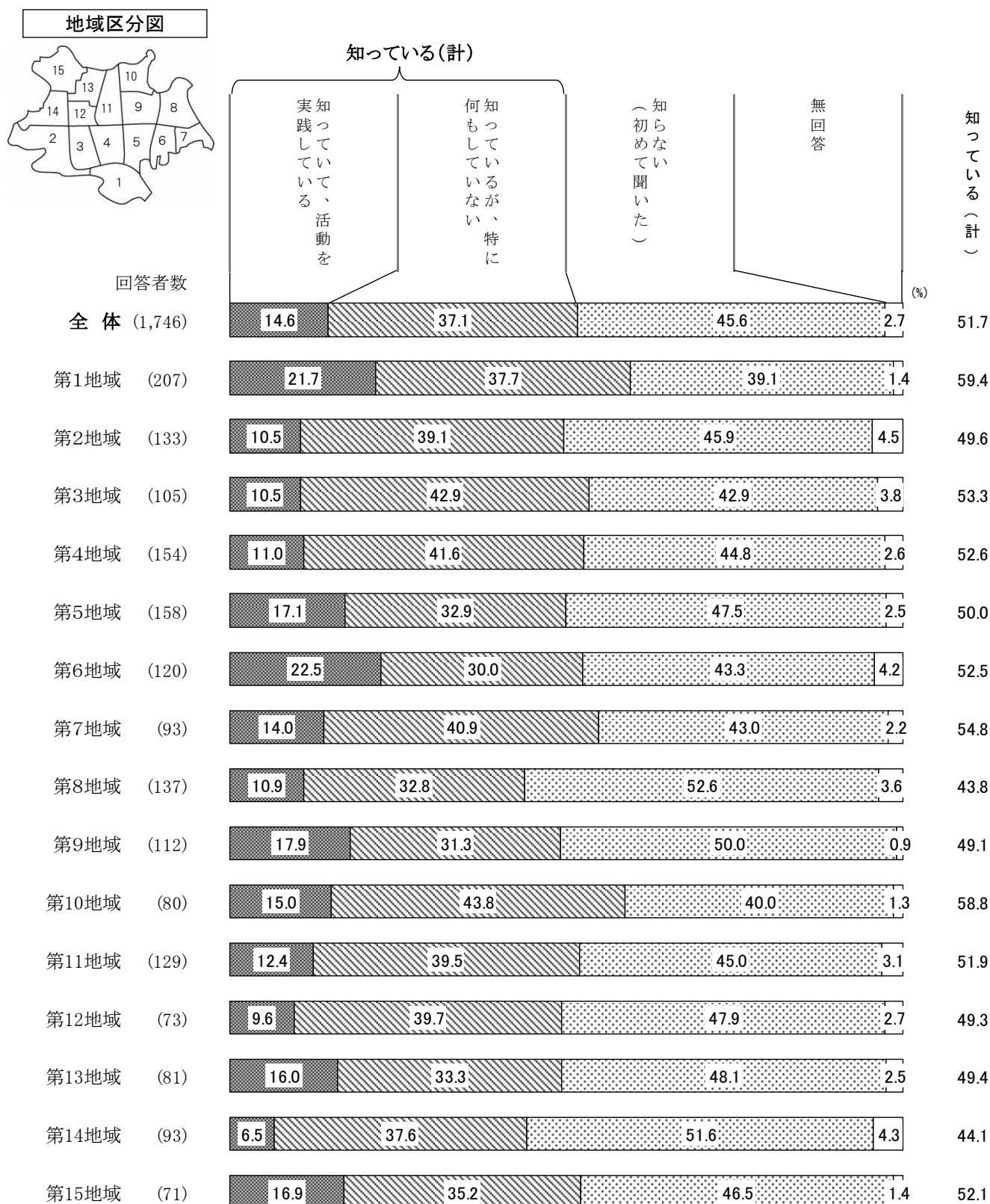
図9-5-1 「フレイル」の認知と予防活動の実践状況



令和2年調査から新設された、「フレイル」の認知と予防活動の実践状況については、「知っていて、活動を実践している」が14.6%で、これに「知っているが、特に何もしていない」の37.1%を合わせた【知っている】は51.7%で5割強となっている。一方、「知らない（初めて聞いた）」は45.6%となっている。

地域別でみると、【知っている】は第1地域が59.4%で最も高く、これに第10地域が僅差の58.8%で続き、この両地域で高くなっている。一方、第8地域と第14地域では【知っている】が4割台半ばとやや低く、「知らない」がともに5割強とやや高くなっている。

図9-5-2 地域別／「フレイル」の認知と予防活動の実践状況

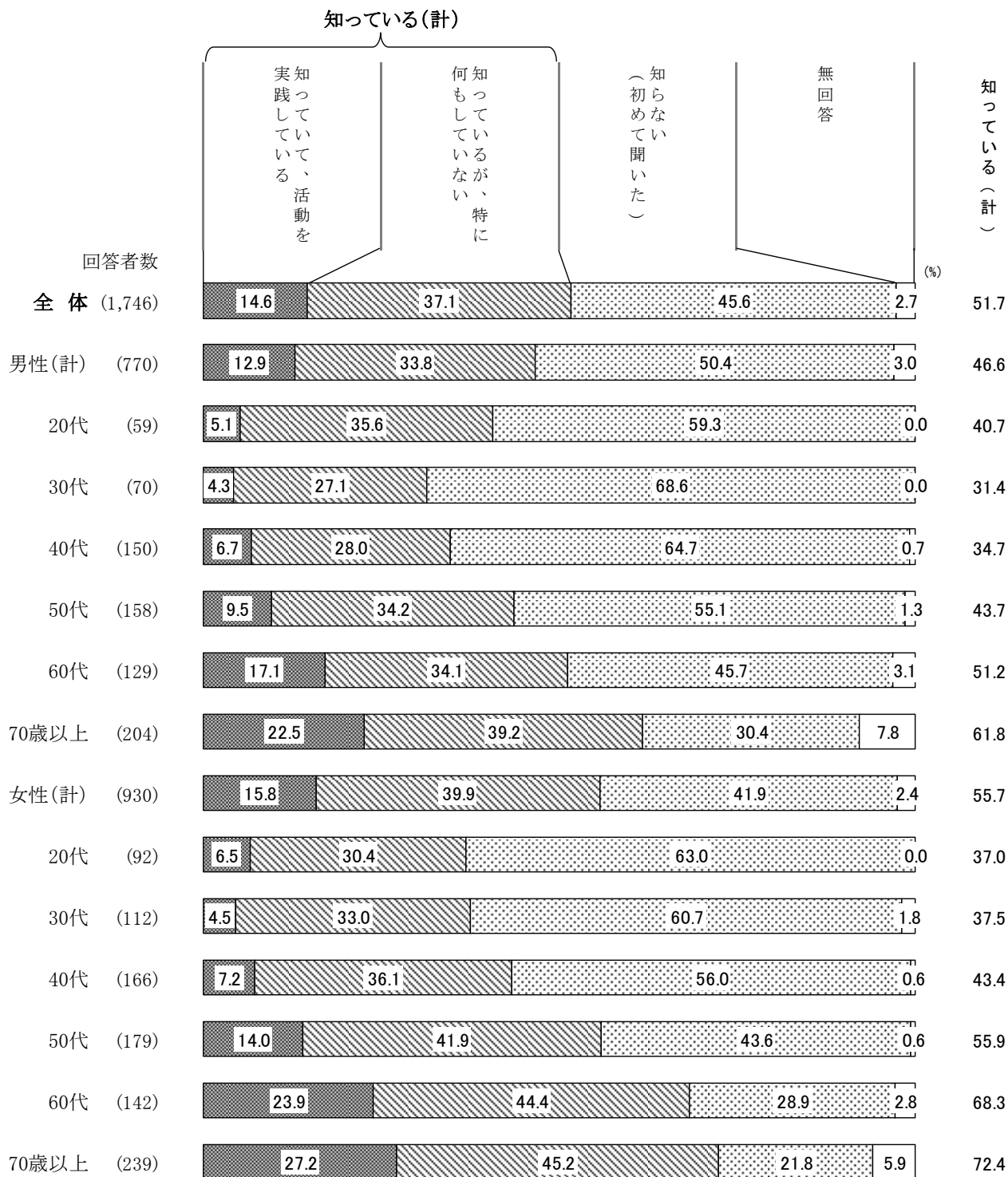


第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

性別でみると、【知っている】は男性46.6%、女性55.7%で女性の方が高くなっている。

性・年代別でみると、【知っている】は、男性では70歳以上で6割強、女性でも60代と70歳以上で7割前後と、それぞれ高くなっており、男女ともに概ね年代が高くなるにつれて認知率に加えて、活動実践率もそれぞれ高まる傾向がみられる。

図9-5-3 性別、性・年代別／「フレイル」の認知と予防活動の実践状況

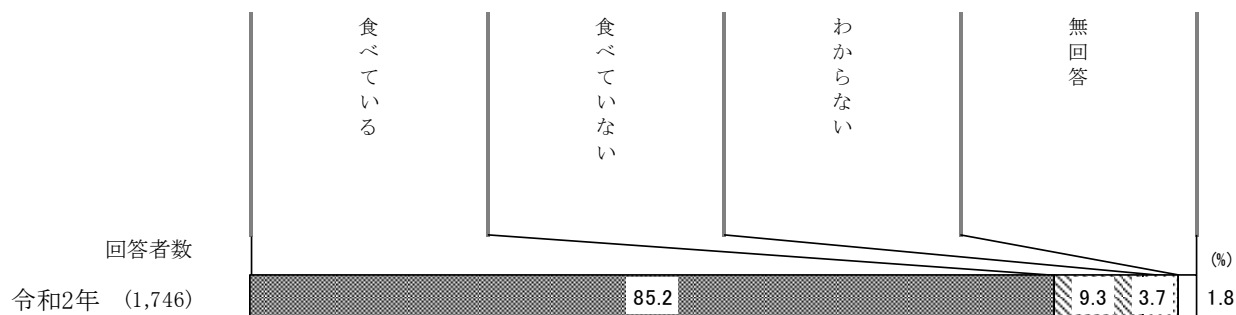


(6) 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況

■【食べている】が8割台半ばに達している。

問47 あなたは毎食、たんぱく質を多く含む食品（肉、魚、卵、大豆製品）1種類以上食べていますか（○は1つだけ）。

図9-6-1 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況

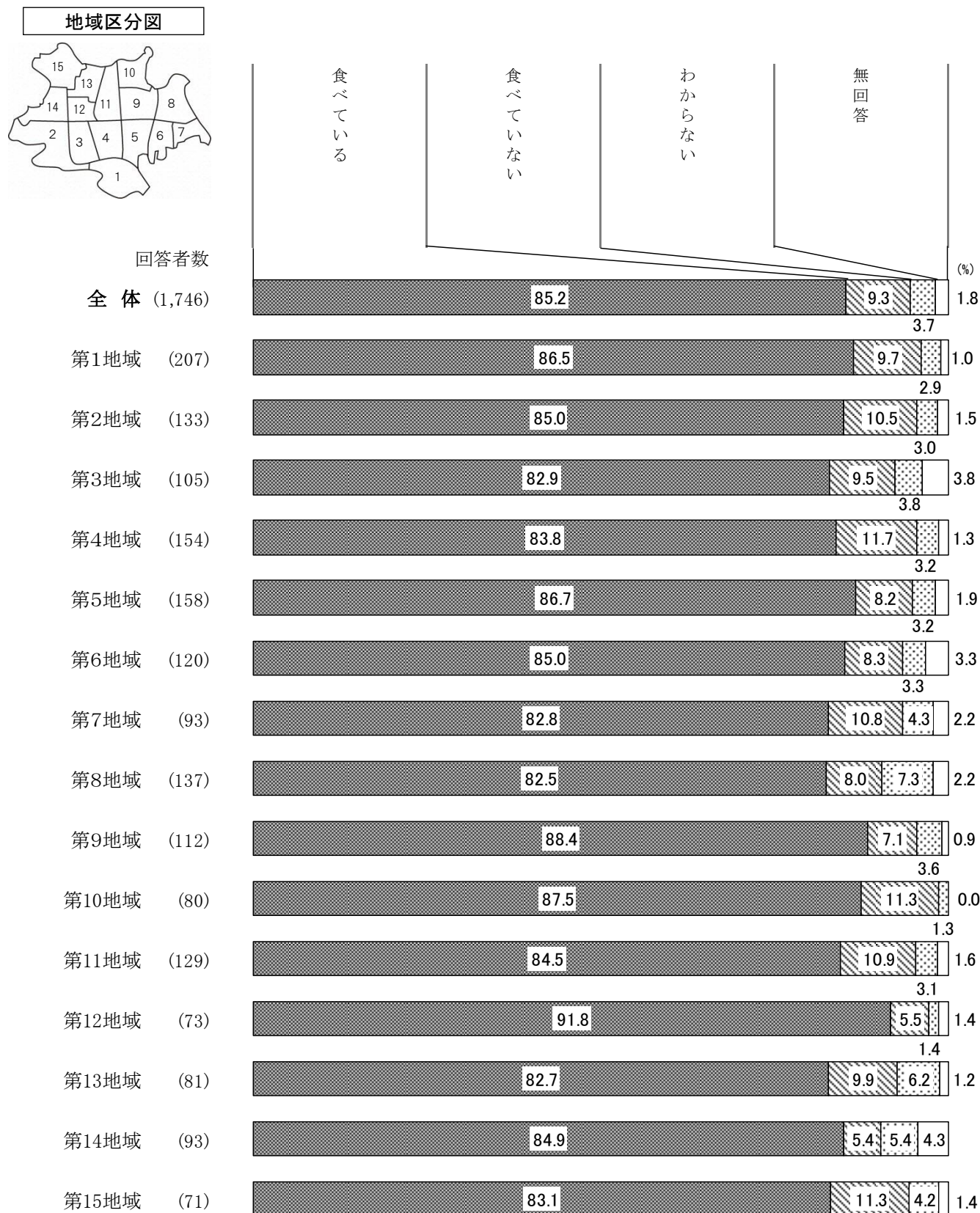


令和2年調査から新設された、「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況については、「食べている」が85.2%を占めて多く、「食べていない」が9.3%、「わからない」が3.7%となっている。

第3章 調査結果の分析 〈「孤立ゼロプロジェクト」など〉

地域別でみると、「食べている」は第12地域が91.8%と9割を超えて最も高く、これに第9地域と第10地域がそれぞれ9割弱で続き、これらの地域でやや高くなっているが、すべての地域で8割を超えており、地域別での目立った大きな違いはみられない。

図9-6-2 地域別／「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況



性別で見ると、「食べている」は男性84.5%、女性86.2%でほとんど違いはみられない。

性・年代別で見ると、「食べている」は、男性では20代と50代で、女性では40代と60代で、それぞれ9割前後とやや高くなっているが、すべての性・年代層で8割を超えており、性・年代別の目立った大きな違いはみられない。

図9-6-3 性別、性・年代別／「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂食状況

